様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２２７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００００４６

研究課題名（和文）医療におけるラショニングと差別に関する倫理学研究

研究課題名（英文）Health care rationing and discrimination

研究代表者
有馬　斉（Arima, Hitoshi）

横浜市立大学・国際教養学部（教養学系）・准教授

研究者番号：５０５１６８８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：生命維持に有効な医療の利用の是非に関して①文献レビュー、②論文執筆、③書評執筆を行った。①文献レビューでは、緩和ケアの倫理に関する最近の文献も収集・精読し、論点を整理した。またその内容に検討を加えて、②成果の一部を論文にまとめた。昨年度中に論文2本を出版し、来年度にも1本出版（書籍の分担執筆）が決定している。加えて、現在投稿論文を準備中である。また③依頼を受けて、3冊の書籍（主題はそれぞれナチスドイツの安楽死計画、京都ALS嘱託殺人事件、生体臓器移植）に関する書評を執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
生命維持に必要な医療の見送りの是非は、近年、国内外で社会問題化している。それが容認できる範囲とその根拠について、これ以上生きたくないという患者の意向、苦痛から解放されることにある患者の利益、延命治療にかかる医療費の高騰、人命の価値、高齢者や機能障害者などの社会的弱者にかかるリスク、行為主体としての医師の意図(生命を短縮するつもりがあるかどうか)や作為性(生命短縮に積極的に関わっているかどうか)など、考慮する必要のある論点を整理し、考察した。

研究成果の概要（英文）：I conducted (1) literature review, (2) published articles, and (3)published a few book reviews. In the literature review, I collected and carefully read recent literature on the ethics concerning the use of life-sustaining treatment. Two papers were published during the last fiscal year, and one is scheduled for publication (as a co-author of a book) in the next fiscal year. In addition, I am also preparing a paper for submission. In addition, I published reviews of three books (on the subjects of Nazi Germany's euthanasia program, the Kyoto ALS commissioned murder case, and living organ transplants).

研究分野：倫理学

キーワード：生命維持医療　安楽死　尊厳死　医療費　公平性　自己決定

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

終末期医療の倫理とのかかわりでは、患者の生命を短縮させることにつながるような医療者の行為や医療制度の是非が国内外で社会問題化している。

とくに、いわゆる安楽死(医師による致死薬の投与)、医師による自殺幇助(致死薬の処方など)、尊厳死(生命維持に必要な医療の見送り)の是非に社会の大きな注目が集まっている。事件や裁判に発展したケースも多くあり、ルール作りが求められていることも少なくない。そこで、これらの行為や制度の倫理的な是非を検討することが急務である。

２．研究の目的

上記のような各処置が容認できる範囲とその根拠について、これ以上生きたくないという患者の意向、苦痛から解放されることにある患者の利益、延命治療にかかる医療費の高騰、人命の価値、高齢者や機能障害者などの社会的弱者にかかるリスク、行為主体としての医師の意図(生命を短縮するつもりがあるかどうか)や作為性(生命短縮に積極的に関わっているかどうか)など、考慮する必要のある論点を整理し、考察する。

とくに最近では、近年の医療費高騰に伴い、医療資源の公正な分配が国内外で重要な社会的課題となりつつある。医療におけるラショニング(医療の利用に制限や優先順位を設けること)はこの課題を解決しうる方法のひとつであり、具体的な制限や優先順位の設けかたについて従来さまざまな提言がなされてきた。しかし、各種の提言を現実に導入することについては慎重でなければならないとする批判的意見も存在する。重要な懸念のひとつは、具体的な提案の多くが、高齢者や障害者にとって不利な内容であるという点にある。そこで本研究では、費用対効果や患者の年齢を基準とするラショニングの政策が、高齢者や障害者に対する不当な差別に該当するといえるかどうかを課題の中心的問いとする。

３．研究の方法

重要な議論や主張を文献レビューを通してリストアップし、すでに提出されている批判を踏まえつつ、個々に妥当性を検討する。

また、検討の結果は、順次、論文化する。

４．研究成果

本課題の研究期間（2018 年 4 月以降）に単著 1 冊、論文 12 本、教科書 2 冊（分担執筆）、書評 6 本等を出版した。とくに 2019 年に出版した単著（『死ぬ権利はあるか』、春風社）では、生命維持に有効な医療の中止と差し控え、致死薬の投与や処方、鎮痛剤や鎮静剤の多量投与など、患者の生命を短縮する可能性のある医療的な処置の是非について、三つの容認論と二つの反対論を検討した。

三つの容認論とは、①死にたいという人の自己決定を尊重することの良さに訴えるタイプの議論[自己決定に訴える議論]、②人を死にたいと思わせるほどの痛みや苦しみから個人を解放することの良さに訴えるタイプの議論[患者の利益に訴える議論]、③国の医療費の高騰を抑え、不足しがちな医療資源を公正に分配するためには、一部の病人を死なせたり、殺したりすることが場合によって正当化できるとする議論[公正さに訴える議論]）の三つである。

二つの反対論とは、④いわゆる安楽死や尊厳死の合法化が、高齢者や障害者、低所得者などの社会的弱者に与えるとされるリスクの存在を指摘するタイプの議論と、⑤人の生命には、本人が死んでも構わないと言っていたり、それ以上生きても本人の利益にはならないと思われたりしている場合でも、生きるに値する価値があると考えることができるため、その場合でも患者を死なせることが正当化できないとする議論（いわゆる「生命の神聖さ」や「人格の尊厳」などと呼ばれる価値に訴える議論）の二つである。これらの議論をひとつひとつ検討した。

とくに③の公正さに訴える議論の中では、自由主義者のノーマン・ダニエルズの議論が有名である。本書では、一章をまるごと割いてダニエルズの議論を批判的に検討した。

ダニエルズによれば、高額医療の利用には年齢制限をかけることが正当化できる。ダニエルズの議論が、一部の生命維持医療の中止と差し控えだけでなく、致死薬の投与（いわゆる積極的安楽死）の合法化の根拠にもなりえること、また、ダニエルズの結論の根拠にある Prudential Lifespan Account と呼ばれる議論については、結局のところ年齢差別だとする批判を十分にかわすことが難しいと思われること、また、この議論では現在の国内の状況（医療資源不足の度合い）に照らして適用させることができないと思われること、などを述べた。

以上でその内容を要約した単著については、出版後、10 本程度の書評や紹介記事をいただいた。そこで、出版後は、これらの書評等に応答する論文を複数執筆した。

さらに、単著では、生命維持医療の中止と差し控え、致死薬の投与や処方、鎮静剤の多量投与の三者について、その道徳性を基本的には常に同時に議論したが、書評会等でその点について疑問を頂く機会が何度かあった。そこで、その後、とくに鎮静剤の多量投与とその他の二者について、倫理的に区別できる可能性を以前より詳しく検討した。その成果として、査読付きの単著英

語論文（Bioethics 誌[International Association of Bioethics, Willey Blackwell]に掲載）を含めて、複数の論文を出版した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計20件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 Arima Hitoshi	４．巻 34
２．論文標題 Continuous deep sedation and the doctrine of double effect: Do physicians not intend to make the patient unconscious until death if they gradually increase the sedatives?	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Bioethics	６．最初と最後の頁 977～983
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/bioe.12792	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 アン・ルース・マッコア著，小出泰士・有馬斉共訳	４．巻 -
２．論文標題 オランダにおける安楽死	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集V：先端医療分野における欧米の生命倫理政策に関する原理・法・文献の批判的研究：2018-2020年度科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)No.18H00606研究グループ編	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 有馬斉	４．巻 -
２．論文標題 品川哲彦先生による拙著『死ぬ権利はあるか』についての書評への応答	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生命倫理・生命法研究資料集V：先端医療分野における欧米の生命倫理政策に関する原理・法・文献の批判的研究：2018-2020年度科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)No.18H00606研究グループ編	６．最初と最後の頁 320 - 333
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 有馬斉	４．巻 4
２．論文標題 由井秀樹氏、堀田義太郎氏による書評への応答(特集1：有馬斉著『死ぬ権利はあるか―安楽死、尊厳死、自殺幇助の是非と命の価値』合評会)	５．発行年 2020年
３．雑誌名 立命館生存学研究	６．最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 3464
2．論文標題 書評 加藤泰史・小島毅編『尊厳と社会(上・下)』(法政大学出版局、2020年)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 図書新聞	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 -
2．論文標題 患者が望まない延命治療を行うことは常に正当化できないパターナリズムか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Synodos(オンラインジャーナル)	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hitoshi Arima	4．巻 -
2．論文標題 Does Suicide Assistance Violate a Person's Dignity?: A Defense of David Velleman's Critique of Assisted Suicide	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Special Issue of the Annals of Ethics 2019[倫理学年報特別号2019]	6．最初と最後の頁 71-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 34
2．論文標題 久保田進一氏、安部彰氏、江口聡氏の書評への応答	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会と倫理	6．最初と最後の頁 162-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 30(1)
2．論文標題 研究倫理の基礎：原理・原則を参照しながら考えることの意義	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Peripheral Nerve 末梢神経	6．最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 -
2．論文標題 学び直しの5冊＜安楽死と尊厳死＞	5．発行年 2019年
3．雑誌名 α-Synodos（オンラインジャーナル）	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 7月号
2．論文標題 著者が語る『死ぬ権利はあるか：安楽死、尊厳死、自殺幇助の是非と命の価値』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月刊公明	6．最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 7(4)
2．論文標題 品川哲彦先生の書評への応答 Part Ⅰ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 倫理学論究	6．最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 7(4)
2．論文標題 品川哲彦先生の書評への応答 Part II	5．発行年 2021年
3．雑誌名 倫理学論究	6．最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 7(4)
2．論文標題 鎮静の倫理を研究することの意義について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 倫理学論究	6．最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 4月号
2．論文標題 終末期医療の倫理とルール：尊厳死と鎮静を容認しつつ安楽死だけ禁止することはできるか	5．発行年 2021年
3．雑誌名 月刊／保険診療	6．最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hitoshi Arima	4．巻 13
2．論文標題 Editorial	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine (日本医学哲学・倫理学会 国際誌)	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 3464
2．論文標題 書評 加藤泰史・小島毅編『尊厳と社会（上下）』（法政大学出版会、2020年）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 図書新聞	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hitoshi Arima	4．巻 14
2．論文標題 Editorial, ”Special Issue: Japanese Discussions on the Moral Status of Human Embryos and Human Fetuses”	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine (日本医学哲学・倫理学会 国際誌)	6．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 -
2．論文標題 書評森下直貴、佐野誠編著、『新版 生きるに値しない命とは誰のことか―ナチス安楽死思想の原典からの考察』(中公選書、2020年)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 老成学研究所HP	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 有馬斉	4．巻 3500
2．論文標題 書評 田村京子 『生体臓器移植の倫理ー臓器をめぐる逡巡と規範』(慶應義塾出版会、2021年)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 図書新聞	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 有馬斉
2．発表標題 緩和ケアがあるから安楽死は不要か
3．学会等名 日本生命倫理学会第31回年次大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 有馬斉
2．発表標題 『死ぬ権利はあるか』合評会、コメントへのリプライ
3．学会等名 立命館大学生存学研究所主催合評会
4．発表年 2019年

1．発表者名 有馬斉
2．発表標題 『死ぬ権利はあるか』合評会、コメントへのリプライ
3．学会等名 京都生命倫理研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 有馬斉
2．発表標題 自殺予防と安楽死
3．学会等名 日本自殺予防学会第43回総会（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 安楽死と命の価値
３．学会等名 東京理科大学教養教育セミナー「知のフロンティア」第6回（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 『安楽死を遂げた日本人』を巡って：スイスに渡った日本人女性の「選択」について考える
３．学会等名 日本メメント・モリ協会 第7回フォーラム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 公立福生病院における人工透析の中止・不開始についてのパネルディスカッション
３．学会等名 日本臨床倫理学会クイックレスポンス部会
４．発表年 2019年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 医学研究の利益相反管理に関する基本的な考え方
３．学会等名 第77回日本医学放射線学会総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 機能障害者の生活満足度調査の結果から分かること
３．学会等名 日本医学哲学倫理学会公開講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 鎮静の倫理と安楽死
３．学会等名 医療事故・紛争対応研究会第14・15回年次カンファレンス（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 有馬斉
２．発表標題 『死ぬ権利はあるか』書評へのリプライ
３．学会等名 2020年度第2回科研費研究会「先端医療分野における欧米の生命倫理政策に関する原理・法・文献の批判的研究」
４．発表年 2020年

〔図書〕　計4件

１．著者名 有馬斉	４．発行年 2019年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 558
３．書名 死ぬ権利はあるか：安楽死、尊厳死、自殺幇助の是非と命の価値	

１．著者名 伏木信次，樫則章，霜田求（担当:分担執筆，範囲:「10章：臓器移植」(pp.131-143)）	４．発行年 2020年
２．出版社 金芳堂	５．総ページ数 288
３．書名 生命倫理と医療倫理：第4版	

１．著者名 松島哲久，宮島光志(担当：分担執筆)	４．発行年 2021年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 188
３．書名 新版 薬学生のための医療倫理	

１．著者名 森田達也，田代志門（担当：分担執筆）	４．発行年 2022年
２．出版社 中外医薬	５．総ページ数 -
３．書名 終末期の苦痛が緩和されないときの選択肢―医学・倫理学・法学の考え方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap
https://researchmap.jp/arima_hitoshi

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関